

## 第2回貧困対策部会 事前に提出いただいた御提案等

No.	御提案等
1	夏休みなど長期休業中には、1人で家で留守番をしている子どもがいる。放課後児童クラブの基準を満たせず入れなかった子どもたちの対処も必要ではないかと思う。
2	まず、日本語の基礎をきちんと学ぶことが大切であり、小学校から英語教育をする必要はないのではないか。保護者がすべて語学が堪能というわけではないので、英会話などは塾に行かなければ会得しにくく、それが貧困対策の弊害になることもあると思う。
3	中学校の指定校にスタートサポーターを設置することは、大いに進めてほしい。
4	子どもの貧困対策に支援者として関わる人を支援・研修することが必要ではないか。
5	資料2の理科教育支援員配置事業、英語教育推進事業などの取組は学校教育の充実対策であって貧困対策の取組とはいえないように思う。単なる事業の羅列ではなく、選択と集中による効果的な貧困対策の取組が必要であるように思う。
6	今回、子どもの貧困対策推進計画が策定されることは、大変意義があると思う。これだけ子どもの貧困問題がクローズアップされているので、これまでの施策を体系的に整理するだけでなく、新たな取組や工夫して取組をさらに展開することが求められていると思う。
7	朝食が食べられない子の支援、虫歯の治療券の支給などはできないか。
8	子どもの就労支援について、ネグレクトなどの虐待を受けている子どもは諦めてしまうことが癖になっている。自尊心が低く頑張るといことができない。働きやすい職場の開拓や新規就労のための履歴書の書き方、電話連絡、面接の受け答えなどの支援や、就労が継続できるような支援、バックアップ体制が必要ではないか。
9	そもそも相談自体をしないという意見が多かったが、現在ある自立相談支援センターたかまつの活用や、行きやすい・相談しやすい機関や悩みを持つ親が集える場を作るなどの方策があるのではないか。
10	緊急度の高い子どもを早急に支援するのはもちろんだが、今関わることによって大きな効果が見込まれるという場合、タイミングを逃さずに関わるのが重要なのではないか。遅れると効果が出るまでに時間がかかる。早めの支援も考えた方がいいのではないか。

\_\_\_\_\_